王さまと靴屋

新美南吉

青空文庫

ある日、王さまはこじきのようなようすをして、ひとりで町へやってゆきました。
町には小さな靴屋がいっけんあって、おじいさんがせっせと靴をつくっておりました。
王さまは靴屋の店にはいって、
「これこれ、じいや、そのほうはなんという名まえか。」
とたずねました。
靴屋のじいさんは、そのかたが王さまであるとは知りませんでしたので、
「ひとにものをきくなら、もっとていねいにいうものだよ。」
と、つっけんどんにいって、とんとんと仕事をしていました。
「これ、名まえはなんと申すぞ。」
とまた王さまはたずねました。
「ひとにくちをきくには、もっとていねいにいうものだというのに。」
とじいさんはまた、ぶっきらぼうにいって、仕事をしつづけました。
王さまは、なるほどじぶんがまちがっていた、と思って、こんどはやさしく、
「おまえの名まえを教えておくれ。」
とたのみました。
「わしの名まえは、マギステルだ。」

とじいさんは、やっと名まえを教えました。
そこで王さまは、
「マギステルのじいさん、ないしょのはなしだが、おまえはこの国の王さまはばかやろうだとおもわないか。」
とたずねました。
「おもわないよ。」
とマギステルじいさんはこたえました。
「それでは、こゆびのさきほどばかだとはおもわないか。」
と王さまはまたたずねました。
「おもわないよ。」
とマギステルじいさんはこたえて、靴のかかとをうちつけました。
「もしおまえが、王さまはこゆびのさきほどばかだといったら、わしはこれをやるよ。だれもほかにきいてやしないから、だいじょうぶだよ。」
と王さまは、金の時計をポケットから出して、じいさんのひざにのせました。
「この国の王さまがばかだといえばこれをくれるのかい。」
とじいさんは、金づちをもった手をわきにたれて、ひざの上の時計をみました。
「うん、小さい声で、ほんのひとくちいえばあげるよ。」

と王さまは手をもみあわせながらいいました。

するとじいさんは、やにわにその時計をひっつかんで床のうえにたたきつけました。

「さっさと出てうせろ。ぐずぐずしてるとぶちころしてしまうぞ。不忠者めが。この国の王さまほどごりっぱなおかたが、世界中にまたとあるかッ。」

そして、もっていた金づちをふりあげました。

王さまは靴屋の店からとびだしました。とびだすとき、ひおいの棒にごつんと頭をぶつけて、大きなこぶをつくりました。

けれど王さまは、こころを花のようにあかるくして、

「わしの人民はよい人民だ。わしの人民はよい人民だ。」

とくりかえしながら、宮殿のほうへかえってゆきました。

青空文庫情報

底本：「ごんぎつね　新美南吉童話作品集1」てのり文庫、大日本図書
　　1988（昭和63）年7月8日第1刷発行
底本の親本：「校定　新美南吉全集」大日本図書
入力：めいこ
校正：鈴木厚司、もりみつじゅんじ
2003年9月29日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

王さまと靴屋

新美南吉

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/